

テーマ(研究課題): Drug Coated Balloon (DCB) 治療における slow flow, no reflow 発生率の検討	
研究責任者	ME 室・臨床検査技師 高梨 賀江
研究目的	<p>当院における DCB 治療後の slow flow, no reflow 発生率の検討をします。</p> <p>DCB はステント内再狭窄病変や新規病変に対する新たな治療として経皮的血行再建術の際に用いられることがあります。</p> <p>また、slow flow, no reflow は心電図変化と胸痛を伴う急性虚血状態を呈し、心筋障害を起こします。DCB 使用後に slow flow, no reflow が発生することがありますが、当院での発生頻度は不明です。</p>
対象となる患者様	2014 年 1 月 10 日～2016 年 12 月 22 日に経皮的血行再建術を受けられた患者様のうち、DCB を使用した約 120 名の患者様。
利用する患者情報	①患者背景(年齢、性別、臨床診断)、②血液所見(CK) ③生理検査所見(血行再建術中心電図)、④薬剤情報(術前、術後)、⑤画像診断(冠動脈造影検査、血管内超音波画像)
研究期間	2017 年 1 月 1 日～2017 年 7 月 1 日
個人情報の取り扱い方法	個人情報保護法を遵守し、被験者情報の取扱いには十分注意します。
個人情報の取り扱いについて異議がある場合の連絡先	<p>公益財団法人心臓血管研究所付属病院</p> <p>ME 室 高梨 賀江</p> <p>Tel: 03-3408-2151 (代表)</p>